

## 子宮内膜症の治療 当帰芍薬散などで

**Q** 二十九歳、主婦。以前より生理不順や生理痛がひどく、夫婦生活も苦痛です。婦人科を受診したところ子宮内膜症との診断を受け、ホルモン剤で一時生理を止める治療を勧められています。子供が欲しいのと副作用が心配なのでホルモン治療でなく、漢方薬で治せないでしょうか。

**A** 子宮内膜症は子宮の内膜の組織が卵巣・後腹膜など子宮内膜とは別のところにできる治りにくい疾患である。月経周期とともに増殖し、体外に排せつされないため、強い月経痛や腰痛などを伴うことが多い。

漢方ではきしゃしゃで手足の先が冷え、冷房によつて月経痛や腰痛が悪化する場合や、質問者のように性交痛で夫婦生活が円滑にいかない場

合は、当帰四逆加呉茱萸生姜湯（とうきしぎゃくかごしゆゆしやうきやうとう）をまず選択する。月経が遅れがちで、冷え性・肩こり、頭重感・めまい・むくみなどの症状があれば当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）を用いる。

比較的がっちりした体格なら桂枝茯苓丸（けいしぶくりやうがん）や折衝飲（せつしやういん）、さらに便秘傾向の人には桃核承気湯（とうかくじやうきとう）の通導散（つうどうさん）がよい。

子宮内膜症は婦人科治療を優先する場合があるが、ホルモン療法には男性ホルモン活性や更年期障害に似た副作用が知られている。漢方薬にはこれらの副作用を軽減する作用があり、適切な併用は子宮内膜症の種々の苦痛を緩和する。